

○昨年7月に発生した九州北部豪雨では、朝倉

九州北部豪雨災害の対応



ボランティアフェスティバル

○ボランティア活動に対する市民の関心を高め、活動への参加につなげることを目的に「久留米市ボランティアフェスティバル」を開催しました。

○ボランティア活動に対する市民の関心を高め、活動への参加につなげることを目的に「久留米市ボランティアフェスティバル」を開催しました。

○ボランティアセンター情報紙「まれっと」を発行し、ボランティアの募集やボランティア団体を活性化するための情報を発信しました。

○SNSを活用し、活動に参加しやすくなるような広報に努めました。また、「くるめ福祉」の紙面の見直しに取り組みました。

わかりやすい 広報をめざして



災害支援ボランティアバス

市災害ボランティアセンターに職員を派遣しました。また、市との共催で久留米市災害支援ボランティアバスを運行し、50日間で延べ753人の市民ボランティアが活動に参加しました。

用語解説

(※1) 生活支援コーディネーター

支え合い推進会議の支援や、地域における調整役（困りごとの調査、地域を支える人の発掘・育成、団体同士が連携できる関係づくり、困りごとが解決できるよう様々なサービスにつなぐ役割など）を担います。

(※2)

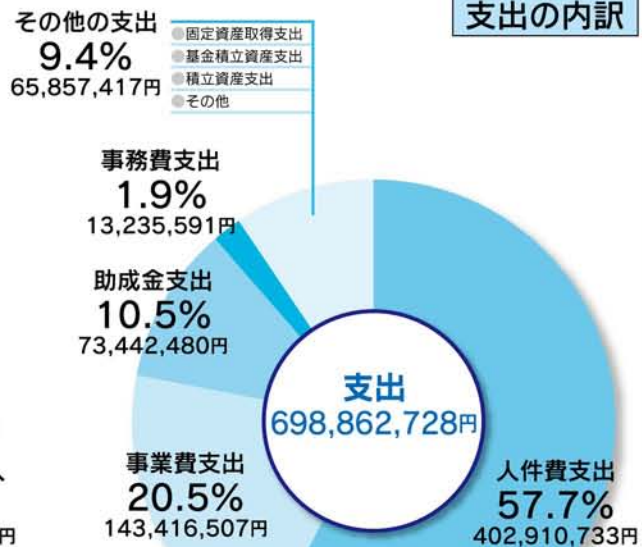
ライフレスキュー久留米連絡会
県社会福祉協議会が平成29年4月にふくおかライフレスキュー事業を開始しました。この事業は、何らかの原因で生活が苦しく、既存の制度では解決できない方々を対象に、各社会福祉法人が配置したサポーターが相談を受け社会福祉法人のそれぞれの専門性や資源を活かして支援するものです。この事業の開始に伴い、平成30年1月に市社会福祉協議会でも市内の社会福祉法人の協力のもと「ライフレスキュー久留米連絡会」を立ち上げました。

(※3)

日常生活自立支援事業
福祉サービスの利用や、日常的な金銭管理などに不安がある人が、住み慣れた地域で安心して暮らせるようお手伝いします。

平成29年度 決算報告

支出の内訳



収入の内訳

